

# 2018年3月期決算説明会

## 日本通運株式会社

I. 経営状況		IV. 2019年3月期の業績予想	
A. 2018年3月期決算の概要	P. 1	A. 連結業績予想	P. 12
B. 直近5年間の売上高・営業利益の推移	P. 2	B. セグメント別状況	P. 13 -
C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移	P. 3	C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）	P. 16 -
D. 財政状態	P. 4	D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）	P. 18
E. キャッシュ・フローの状況	P. 4	E. 2019年3月期予想数値の考え方	P. 19
II. 外部環境の変化およびその他の変動要素		V. 経営計画の進捗状況	
A. 増減要素	P. 5 -	A. 日通グループ経営計画2018 一新・世界日通。-	P. 20
B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳	P. 7	B. 重点戦略の進捗状況	P. 21
III. 2018年3月期業績分析		C. 数値目標の進捗状況	P. 22
A. セグメント別状況	P. 8 -	VI. 配当の状況	P. 23

2018年4月27日

I. 経営状況							
A. 2018年3月期決算の概要							
1) 概要(連結) (単位: 億円、%)							
	2018/3期 実績 ①	2017/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	通期予想 (3月30日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	達成率 ⑦=①÷⑤ ×100
売上高	19,953	18,643	1,310	7.0	19,800	153	100.8
営業利益	702	574	128	22.4	700	2	100.4
経常利益	743	638	105	16.6	730	13	101.9
親会社株主に 帰属する 当期純利益	65	364	Δ299	Δ82.1	10	55	653.4
2) 特別損失・特別利益の計上 (億円未満切捨て)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別損失(のれん及び固定資産の減損損失) <ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社ワンビシアーカイブズ Δ445億円</li> <li>日通ロジスティクスタイランド株式会社 Δ71億円</li> </ul> </li> <li>特別利益(政策保有株式の売却及び退職給付信託への抛却)※税負担控除後 +148億円</li> </ul>							
3) 連結経営指標 (前期実績)							
・売上高営業利益率			3.5%	(3.1%)			
・売上高経常利益率			3.7%	(3.4%)			
・ROE			1.2%	(6.9%)			
・ROA			0.4%	(2.4%)			
Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved. 2018年3月期決算説明会資料 1							

・通期、連結の売上高、営業利益、経常利益としては、過去最高。

・のれん及び固定資産に係る減損損失を特別損失として517億円計上。  
 ・当期純利益が、3月30日付での予想数値より増加したのは、予想数値公表時の見込み額と比べ、最終決算数値により確定した減損損失額が53億円、減少したことによる。

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

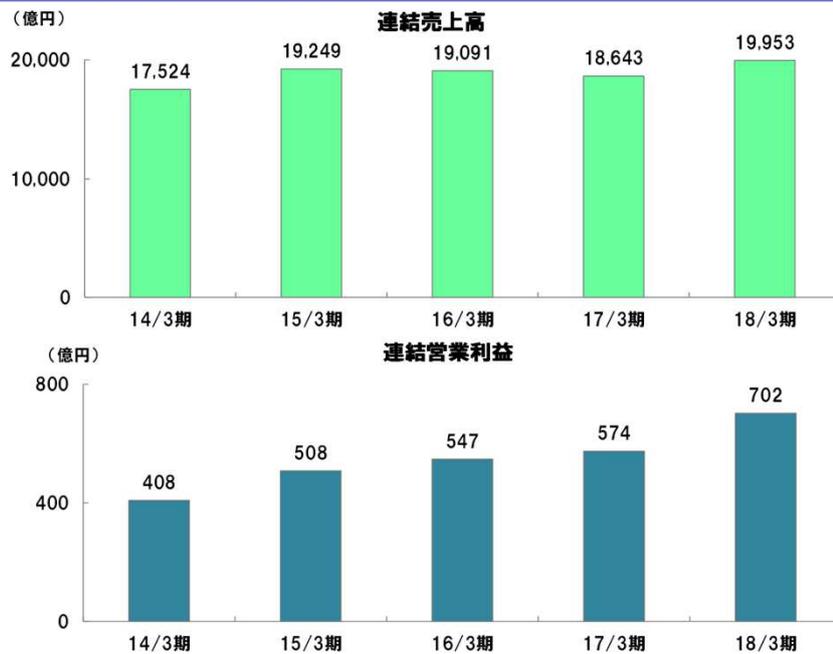
海外経済が緩やかな回復を継続するなか、輸出や生産活動等の持ち直しによって、緩やかな回復基調で推移。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国内貨物は、自動車部品や鉄鋼等の輸送需要が増加し、国際貨物は、アジア向けを中心として、電子部品等の航空貨物が好調を維持するなど、総じて堅調に推移。

# I. 経営状況

## B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



### ◇売上高の推移

対前年1,310億円、7.0%増加。

・国際貨物の堅調な荷動きを背景に、お客様の動向を的確に捉え、国内、海外の各地域が取扱いを伸ばし、すべてのセグメントで増収。

### ◇営業利益の推移

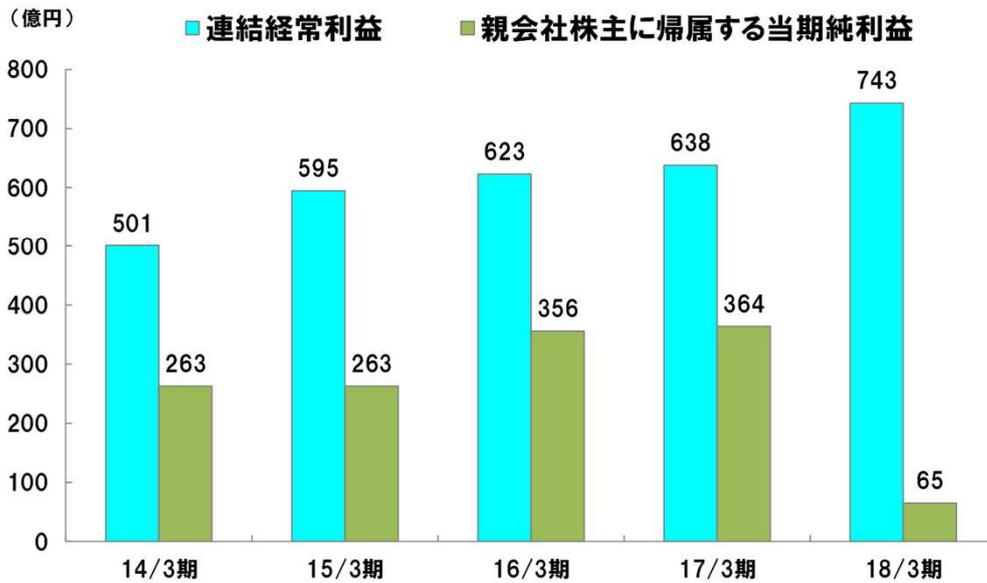
対前年128億円、22.4%、増加。

・利用運送費や外注費の増加、燃油費の上昇したが、売上高の増加等により、米州を除く各セグメントで増益。

・有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合と比べ、営業利益が、83億円増加。

# I. 経営状況

## C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益の推移



### ◇経常利益の推移

対前年105億円、16.6%の増加。

・営業外収益は、為替差益や持分法による投資利益の減少等により、30億円減少。

・営業外費用は、前年にあった自己株式取得費用や社債発行関連費用の減少等により、8億円減少。

### ◇当期純利益の推移

・特別利益は、政策保有株式の売却および退職給付信託への拠出により、売却益を58億円、退職給付信託設定益を156億円それぞれ計上したことなどから、159億円増加。

・特別損失は、減損損失の計上などから、501億円増加。

# I. 経営状況

## D. 財政状態

(単位：億円、%)

	2018/3期末	2017/3期末	増減額
総資産	15,180	15,218	△37
自己資本	5,298	5,363	△65
自己資本比率	34.9	35.2	-

## E. キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

	2018/3期	2017/3期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー(A)	918	1,023	△104
投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	△874	△709	△164
フリー・キャッシュ・フロー(A+B)	44	313	△269
財務活動によるキャッシュ・フロー	△314	△118	△196
現金及び現金同等物の期末残高	1,378	1,633	△254

### ◇財政状態

- ・総資産は、のれん等の無形固定資産の減少により、37億円減少。

### ◇キャッシュ・フローの状況

- ・現金及び現金同等物の2018年3月末残高は、254億円減少。
- ・主に、固定資産の取得による支出が増加したことなどによるもの。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (通期)	参考
燃油費単価変動 による影響	+ 22.4 億円 (費用増) ※4Q単四半期 + 4.6 億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 90.66円/ℓ (79.87円) ガソリン : 124.38円/ℓ (113.79円) 船舶重油 : 44.29円/ℓ (36.10円)
為替による影響	売上高 + 123.4 億円 営業利益 + 4.5 億円 ※4Q単四半期 売上高 + 64.4 億円 営業利益 + 2.1 億円	年間平均為替レート (前年同期) USD : 112.19円 (108.84円) EUR : 126.67円 (120.33円) HKD : 14.40円 (14.02円) RMB : 16.63円 (16.37円)  「年間平均為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

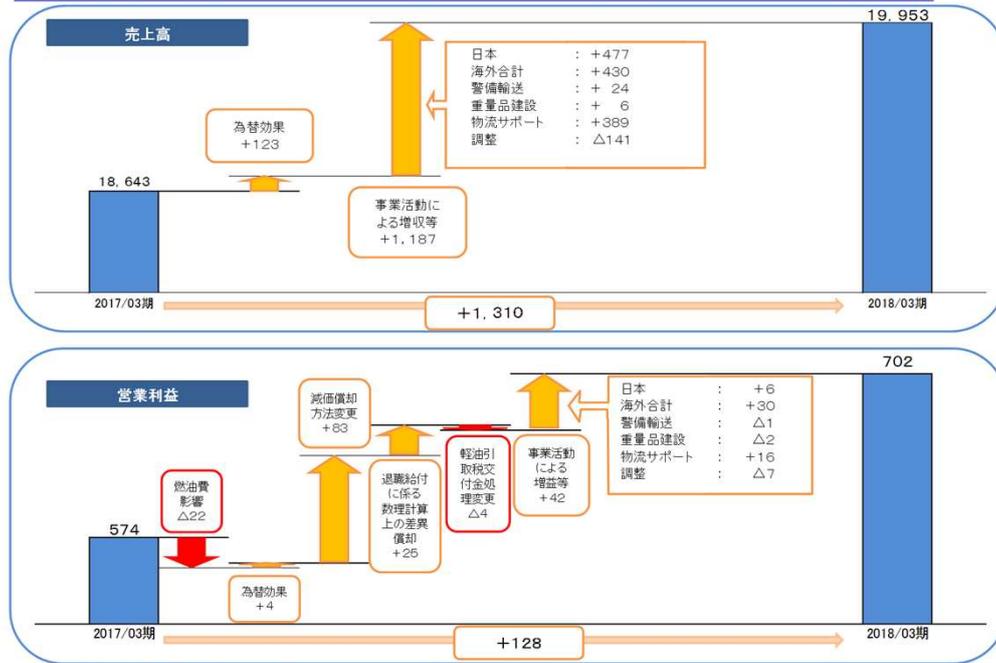
### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響 (通期)	参考
有形固定資産の減価償却方法および耐用年数変更による影響 (※従来の方法によった場合と比較した影響額)	営業利益 + 83.0 億円 ※ 4Q単四半期 + 26.4 億円	(通期) (4Q単四半期) 日本 : + 66.3 億円 + 21.3 億円 警備輸送 : + 8.3 億円 + 2.5 億円 重量品建設 : + 3.4 億円 + 0.9 億円 物流サポート : + 4.9 億円 + 1.5 億円
退職給付に係る数理計算上の差異償却による影響	営業利益 + 25.4 億円 ※ 4Q単四半期 + 6.3 億円	
軽油引取税交付金の経理処理変更による影響	営業利益 △ 4.9 億円 ※ 4Q単四半期 △ 11.3 億円	物流サポート

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳

(単位：億円)



Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2018年3月期決算説明会資料

7

#### ◇適正料金收受の取組み

・2017年度累計で、37億円の収入増加の効果があったが、外注費の単価増の影響が34億円あり、増益効果は、3億円。

### Ⅲ. 2018年3月期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 1) 日本

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
通期	売上高	12,034	11,557	477	4.1	11,914	101.0	120
	セグメント利益	459	386	73	18.9	450	102.2	9
4Q単四半期	売上高	3,084	2,917	166	5.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	130	107	22	20.5	4.2 (3.7)		
	概況	・鉄道輸送では、自動車関連部品の取扱いが増加したが、悪天候による運休本数が増加。 ・トラック輸送は、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。 ・海運では、機械関連部品や自動車の設備輸送の輸出、アパレル関係の輸入が堅調。 ・航空では、欧州を筆頭に、各方向向けに自動車関連部品が好調に推移し、北・中米向けの機械部品やアジア向けの電子部品等の荷動きも堅調。						

##### 2) 米州

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
通期	売上高	913	838	75	9.0	939	97.3	△25
	セグメント利益	44	47	△2	△6.0	49	91.6	△4
4Q単四半期	売上高	238	222	15	7.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	12	△3	△30.6	3.5 (5.4)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収・減益。 ・前年の航空輸出増大の反動により、航空輸出が減少。海運輸出入、倉庫配送業務、自動車運送は、堅調に推移。 ・航空利用費やトラックの外注費が、高騰。						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容  
 「海外会社」の第4四半期は、10－12月期

#### ◇日本・・・増収、増益

- ・鉄道輸送は、自動車関連部品の取扱いが増加したが、悪天候による運休本数の増加により、減収。
- ・トラック輸送は、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移し、増収。
- ・海運は、機械関連部品や自動車の設備輸送の輸出、アパレル関係の輸入が堅調。
- ・航空は、輸出混載貨物重量が、対前年で41.2%と増加し、マーケットの伸び率、19.4%を大きく上回った。
- ・欧州を筆頭に、各方向向けに自動車関連部品が好調に推移し、北・中米向けの機械部品やアジア向けの電子部品等の荷動きも堅調。
- ・日本発の輸出航空貨物の重量動向、当社シェアの推移については、補足資料1ページ参照。
- ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合と比べ、年間累計で66億円利益が増加。
- ・補足資料の2ページで、減価償却方法の変更の影響と退職給付にかかる数理差異の影響を除いた、日本セグメント内の年間累計での営業利益の増減を、事業部門別にご案内。
- ・決算処理等を含まない参考数値ですが、事業部門ごとの傾向を示す資料として、ご参照。

#### ◇米州・・・増収、減益

- 為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。
- ・前年にあった航空輸出の増大の反動減による減少はあったものの、海運の輸出入、倉庫配送、自動車運送が堅調で増収。
  - ・航空利用費やトラックの外注費が高騰しており、減益。

### Ⅲ. 2018年3月期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 3) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	960	792	167	21.1	1,001	96.0	△40
	セグメント利益	41	20	21	104.6	44	94.4	△2
4Q単四半期	売上高	288	217	70	32.6	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	6	6	92.1	4.6 (3.1)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収・増益。 ・航空輸出が昨年の不調を脱し、航空輸入も自動車関連や電子部品の取扱いが増加。 ・オランダにおける倉庫配送業務も、堅調に推移。 ・イタリアでは、ハイファッションの取扱い増により、航空輸出が堅調に推移。フランスで非日系顧客の取扱い拡大。						

##### 4) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額	
		18/3期	17/3期	増減額				増減率
通期	売上高	1,174	1,017	157	15.5	1,171	100.3	3
	セグメント利益	18	11	7	65.2	18	102.5	0
4Q単四半期	売上高	324	310	13	4.5	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	2	2	81.1	1.7 (1.0)		
	概況	・現地通貨ベースにおいては、減収・増益。 ・香港での倉庫配送業務は減収となったが、全域で、自動車関連、医療機器、電子部品等の取扱い増により、航空輸出入、海運輸出入が堅調に推移。 ・中国における航空チャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰が継続。						

#### ◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・航空輸出が昨年の不調から脱し、航空輸入も、自動車関連や電子部品の取扱いが増加。
- ・オランダにおける倉庫配送業務も、堅調に推移。
- ・イタリアでは、ハイファッションの取扱いにより、航空輸出が堅調。
- ・フランスにおける非日系顧客の取扱いも拡大。

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、減収、増益。

- ・香港における倉庫配送は減収だったが、自動車関連、医療機器、電子部品等の取扱いにより、航空輸出入、海運輸出入が、堅調に推移。
- ・中国におけるチャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰は継続しており、増益ではあったが、利益率の大幅な改善には至らず。

### Ⅲ. 2018年3月期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
通期	売上高	853	703	150	21.4	862	99.1	△8
	セグメント利益	33	24	9	36.6	35	97.0	△1
4Q単四半期	売上高	231	189	42	22.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	7	6	0	12.5	3.0 (3.3)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収・増益。</li> <li>・地域全体で、各取扱いが堅調に推移。</li> <li>・非日系顧客の医薬品や電子部品関連、自動車関連の航空輸出が好調。</li> <li>・一部の国では、利用費や下請費が高騰。</li> </ul>						

##### 6) 警備輸送

(単位：億円、%)

		実績		前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額
		18/3期	17/3期	増減額	増減率			
通期	売上高	572	547	24	4.5	573	99.9	△0
	セグメント利益	17	9	7	82.6	18	97.9	△0
4Q単四半期	売上高	142	136	5	4.2	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	3	1	43.3	3.0 (2.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みを推進。</li> </ul>						

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、増益。

- ・地域全体で、各取扱いが堅調に推移。
- ・非日系顧客の医薬品や電子部品関連、自動車関連の航空輸出が好調だったが、一部の国では、利用費や下請費の高騰が顕著。

#### ◇警備輸送・・・増収、増益

・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みを推進。

- ・有形固定資産の減価償却方法の変更により2億円、従来の方法によった場合と比べ、利益が増加。

### Ⅲ. 2018年3月期業績分析

#### A. セグメント別状況

##### 7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
通期	売上高	476	469	6	1.3	480	99.2	△3
	セグメント利益	40	38	1	4.6	43	94.5	△2
4Q単四半期	売上高	96	117	△20	△17.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	11	△7	△59.6	4.9 (10.0)		
	概況	・前年にあった海外の大型プラント工事の反動減により、減収・減益。						

##### 8) 物流サポート

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		通期予想 (18/3/30発表)	達成率	差額		
		18/3期	17/3期				増減額	増減率
通期	売上高	4,432	4,039	392	9.7	4,360	101.7	72
	セグメント利益	117	100	17	17.0	117	100.2	0
4Q単四半期	売上高	1,232	1,113	119	10.7	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	35	45	△10	△23.0	2.8 (4.1)		
	概況	・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加。 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が、堅調に推移。						

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産ほか)

#### ◇重量品建設・・・減収、減益

- ・前年にあった海外の大型プラント工事の反動減によるもの。
- ・有形固定資産の減価償却方法の変更により9千万円、従来の方法によった場合と比べ、利益が増加。

#### ◇物流サポート・・・増収、減益

- ・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加したほか、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移。
- ・前年度に実施した軽油引取税交付金にかかる経理処理の変更により11億円、前年から利益が減少。
- ・有形固定資産の減価償却方法の変更により1億円、従来の方法によった場合と比べ、利益が増加。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### A. 連結業績予想

(単位：億円、%)

	2019/3期予想			2018/3期実績			増減額 (増減率)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	10,100	10,700	20,800	9,561	10,391	19,953	538 (5.6)	308 (3.0)	846 (4.2)
営業利益	330	440	770	322	380	702	7 (2.4)	59 (15.7)	67 (9.6)
経常利益	350	460	810	344	399	743	5 (1.5)	60 (15.3)	66 (8.9)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	220	230	450	215	△150	65	4 (2.0)	380 (-)	384 (588.7)

#### ◇業績予想の前提となる経済環境

・輸出や生産活動の持ち直しにより、引き続き、回復基調が期待される一方で、世界的な地政学リスクの高まりや欧州の政情不安、米国の政治・経済の動向等により、先行きは不確実性が高く、不透明な状況で推移すると予測。

・当社グループにおいては、国内外における地域特性に適応した事業展開とワンストップ営業・アカウントマネジメントのグローバル展開によるお客様起点での営業強化等により、売上、利益の増加を見込む。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

項目	通期			上期			下期			
	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	
日本	売上高	12,245	11,888	356 (3.0)	5,990	5,770	219 (3.8)	6,255	6,118	136 (2.2)
	営業利益	516	456	59 (13.1)	219	199	19 (10.0)	297	257	39 (15.5)
	利益率	4.2	3.8	-	3.7	3.4	-	4.7	4.2	-
	見通し概況	・航空・輸出フォワーディングが、引き続き、アジア向けを中心に堅調に推移。 ・地域特性に適応した事業展開、およびワンストップ営業・アカウントマネジメントのさらなる拡大、深化。								
米州	売上高	954	913	40 (4.4)	469	448	20 (4.6)	485	465	19 (4.2)
	営業利益	43	44	△1 (△4.1)	20	27	△7 (△26.1)	23	17	5 (29.4)
	利益率	4.5	4.9	-	4.3	6.0	-	4.7	3.8	-
	見通し概況	・米国・メキシコ間の自動車関連のトラック輸送の取扱いが、引き続き堅調に推移。海運輸出入・倉庫配送の荷動きが継続。								
欧州	売上高	1,124	960	163 (17.0)	551	438	112 (25.7)	573	522	50 (9.7)
	営業利益	46	41	4 (10.7)	20	17	2 (15.7)	26	24	1 (7.1)
	利益率	4.1	4.3	-	3.6	3.9	-	4.5	4.6	-
	見通し概況	・倉庫配送業務、航空・海運の輸出入フォワーディングが堅調に推移。非日系企業への営業強化が浸透。								

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2018年3月期決算説明会資料

13

#### ◇日本・・・増収、増益

- ・航空・輸出フォワーディングが、引き続き、アジア向けを中心に堅調に推移する見込み。
- ・地域特性に適応した事業展開、およびワンストップ営業・アカウントマネジメントのさらなる拡大、深化による営業強化を図る。

#### ◇米州・・・増収、減益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでは、増収、増益。

- ・米国、メキシコにおいて、自動車関連のトラック輸送の取扱いが、引き続き堅調に推移、海運輸出入・倉庫配送の荷動きが継続する見込み。

#### ◇欧州・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・地域全体で、倉庫配送業務が順調に売上げを伸ばしており、航空・海運の輸出入フォワーディングも堅調に推移する見込み。
- ・非日系企業への営業強化も着実に浸透。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

項目	通期			上期			下期			
	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	
東アジア	売上高	1,213	1,174	38 (3.2)	572	547	24 (4.4)	641	627	13 (2.2)
	営業利益	28	18	9 (51.7)	12	7	4 (56.1)	16	10	5 (48.6)
	利益率	2.3	1.6	-	2.1	1.4	-	2.5	1.7	-
	見通し概況	・中国における自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移。 ・航空・海運フォーワーディングが回復。航空利用費の高騰に対し、お客様への転嫁と混載効率の改善を図る。								
南アジア・オセアニア	売上高	900	853	46 (5.4)	423	395	27 (7.0)	477	458	18 (4.0)
	営業利益	37	33	3 (8.9)	18	16	1 (10.2)	19	17	1 (7.8)
	利益率	4.1	4.0	-	4.3	4.1	-	4.0	3.8	-
	見通し概況	・倉庫配送業務が堅調に推移、航空・輸出フォーワーディングの荷動きも継続。								
警備輸送	売上高	739	718	20 (2.9)	362	359	2 (0.8)	377	359	17 (5.0)
	営業利益	15	21	△6 (△29.1)	5	10	△5 (△52.9)	10	10	△0 (△5.1)
	利益率	2.0	2.9	-	1.4	3.0	-	2.7	2.9	-
	見通し概況	・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの構築を図り、地方金融機関をターゲットに、アウトソーシングの獲得を推進。 ・人件費等の増加が影響。								

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期決算説明会資料

14

#### ◇東アジア・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・中国における自動車関連の取扱いが、引き続き堅調に推移、航空・海運フォーワーディングが回復する見込み。
- ・航空利用費の高騰は継続するが、顧客への転嫁と混載効率の改善を見込む。

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の想定を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・地域全体で、倉庫配送業務が堅調に推移、航空・海運の輸出入フォーワーディングも、荷動きの継続を見込む。
- ・アジア発着、アジア域内での物流拡大を図るべく、拠点の拡充等、投資を継続。

#### ◇警備輸送・・・増収、減益

- ・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの構築を図り、地方金融機関をターゲットに、アウトソーシングの獲得を推進。
- ・人件費等の増加影響を見込む。

## IV. 2019年3月期の業績予想



### B. セグメント別状況

(単位：億円、%)

		通期			上期			下期		
		2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)
重量品建設	売上高	458	476	△18 (△3.8)	243	248	△5 (△2.3)	215	227	△12 (△5.4)
	営業利益	36	40	△4 (△11.4)	20	23	△3 (△14.7)	16	17	△1 (△6.8)
	利益率	7.9	8.5	-	8.2	9.4	-	7.4	7.6	-
	見通し概況	・前年上期に集中したシャットダウンメンテナンス業務が減少、海外における大型プロジェクトが見込めず。								
物流サポート	売上高	4,654	4,432	221 (5.0)	2,224	2,042	181 (8.9)	2,430	2,389	40 (1.7)
	営業利益	118	117	0 (0.7)	56	53	2 (5.1)	62	63	△1 (△3.1)
	利益率	2.5	2.6	-	2.5	2.6	-	2.6	2.7	-
	見通し概況	・日通商事におけるロジスティクス・サポート業務で、堅調な荷動きが継続。								

※ 警備輸送事業に関わる組織改正の実施にあわせて、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更いたしました。これに伴い、本見通しについては、前年度の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較しております。  
(変更セグメント：日本、警備輸送)

#### ◇重量品建設・・・減収、減益

・前年上期に集中したシャットダウンメンテナンス業務が減少、海外における大型プロジェクトが、前年ほど見込めない。

#### ◇物流サポート・・・増収、増益

・日通商事におけるロジスティクス・サポート事業で、梱包業務が堅調に推移する見込み。

## IV. 2019年3月期の業績予想

### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
燃油費単価変動 による影響	+12.7億円 (費用増)  上期 +10.8億円 下期 +1.9億円	(前期年間平均) 軽油 : 97.10円/ℓ (90.66円) ガソリン : 131.90円/ℓ (124.38円) 船舶重油 : 48.10円/ℓ (44.29円) ※使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 △33.4億円 営業利益 △0.9億円	(前期年間平均) USD : 106.90円 (112.19円) EUR : 131.40円 (126.67円) HKD : 13.60円 (14.40円) RMB : 16.90円 (16.63円)  「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

## IV. 2019年3月期の業績予想

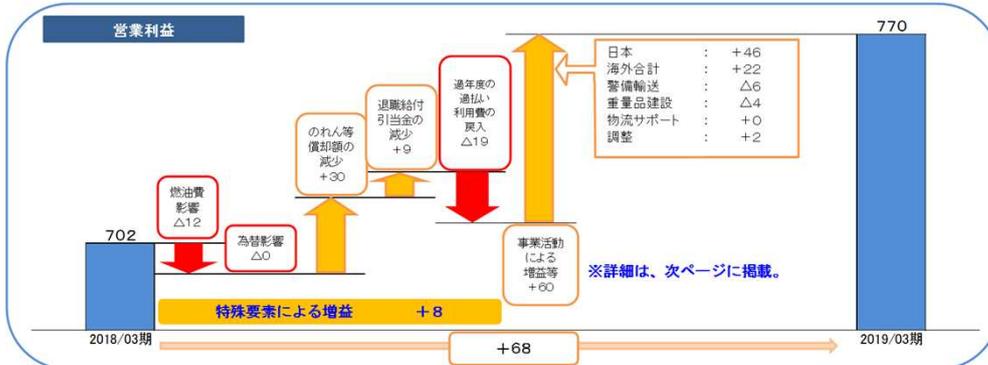
### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益 + 30億円	(通期) 日本 : + 25億円 南アジア・オセアニア : + 5億円
退職給付引当金の減少	営業利益 + 9.8億円	(通期) 日本 : + 7.8億円 警備輸送 : + 1.7億円 重量品建設 : + 0.2億円
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益 △ 19億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △ 8億円 (1Q) 米州 : △ 11億円 (2Q)

# IV. 2019年3月期の業績予想

## D. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳（予想）

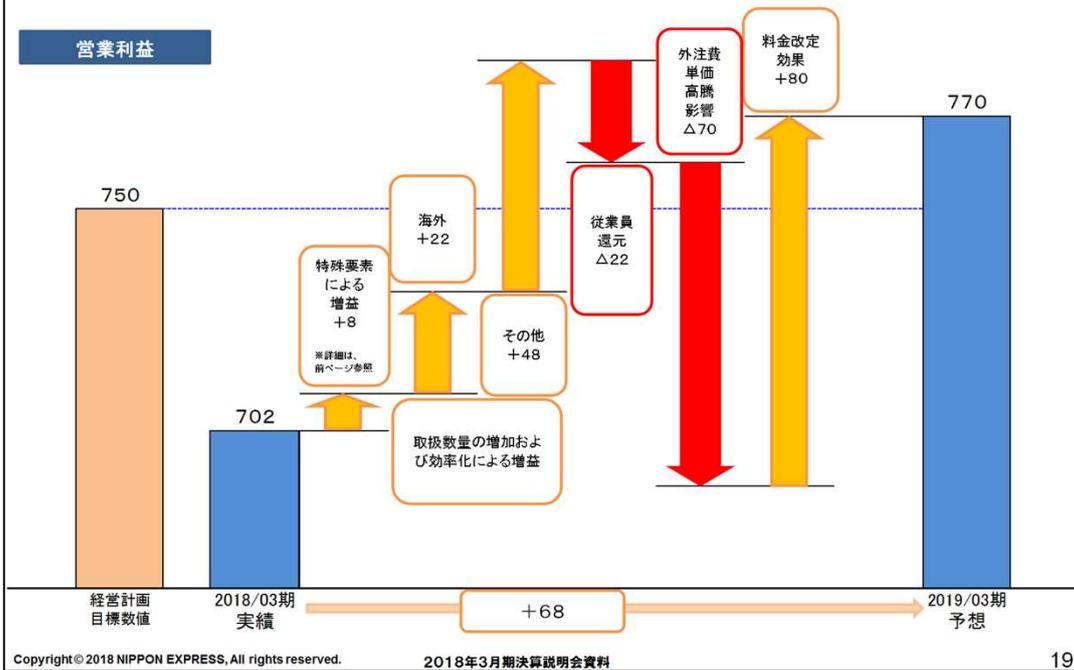
（単位：億円）



## IV. 2019年3月期の業績予想

### E. 2019年3月期 予想数値の考え方

(単位：億円)



#### ◇適正料金收受の取組み

- ・2018年度は、80億円の増収効果、10億円の増益効果を目指し、取り組む。

## V. 経営計画の進捗状況

### A. 日通グループ経営計画2018 -新・世界日通。-

国内(日本)事業の収益性を更に向上させ、真のグローバルロジスティクス企業となるべく、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を着実に実行する。



## V. 経営計画の進捗状況

### B. 重点戦略の進捗状況

重点戦略	項目	進捗状況	
エリア戦略	日本 「成長性」と「収益性」 の両立	地域特性に適応した事業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オートモーティブ事業支店」設置</li> <li>・「九州オートモーティブロジスティクス支店」設置</li> <li>・「能美物流センター」開設</li> <li>・ビール大手4社の関西・中国－九州間の共同モーダルシフトをサポート</li> </ul>
		国内事業の強化と新規事業軸の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネットワーク商品事業本部」設置</li> <li>・NEX－NET:Sea &amp; Rail 東京ランドブリッジWB、EB」販売開始</li> <li>・「Narita Temperature Controlled HUB」新設（＝大型冷凍・冷蔵施設）</li> <li>・「TempSure Thermo ULD」に新温度帯（2℃～8℃）のサービス新設（→医療・医薬品輸送に対応可能）</li> <li>・「海外展開ハイウェイ」運用開始</li> </ul>
	海外 日通グループの成長 を牽引	米州、欧州、東アジアでの収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ケニア支店」、「モロッコ支店」開設</li> <li>・米墨間物流の重要エリアであるテキサス州ラレド拠点を移転・拡充</li> </ul>
		南アジア・オセアニアにおける成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマーに「ティアワ・ロジスティクス・センター」/「ミヤワティ事務所」開設</li> <li>・インドネシアに「スマランロジスティクスセンター」開設</li> <li>・インドネシアでの「食品関連」「電機・電子関連」の保税物流センターのライセンス、ハラール認証、AEO認証取得</li> </ul>
機能戦略	営業力の徹底強化	非日系企業への営業拡大	・「グローバル・ロジスティクス・イノベーションセンター」開設
	グループ経営の強化	日通グループの企業価値向上に資するM&A	・「TraconfS.r.l.」の子会社化
	コア事業の強化と 高度化	イントラアジア圏におけるネットワーク拡充	・「南アジア・オセアニア日本通運メコン開発センター」開設
		アジア発着トラフィックの取扱い拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カザフスタン鉄道」との業務提携</li> <li>・「重慶SEA &amp; RAILサービス」を新設</li> <li>・「上港集団物流有限公司」と業務提携</li> </ul>

## V. 経営計画の進捗状況

### C. 数値目標の進捗状況

(単位: 億円、%)

項目	2019/3期 達成目標	2017/3期 実績	2018/3期 実績	2019/3期 予想
売上高	21,500	18,643	19,953	20,800
営業利益	750	574	702	770
親会社株主に帰属する当期純利益	450	364	65	450
国際関連事業売上高	8,600	6,459	7,506	8,000
ROA(総資産利益率)	2.8	2.4	0.4	3.0
投資計画 (3年間の総額)	2,000	803	965	900



Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2018年3月期決算説明会資料

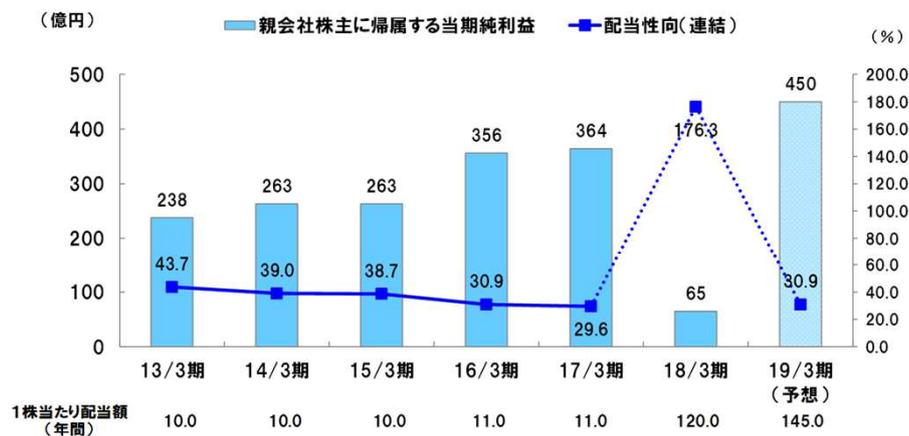
22

#### ◇経営計画の2年目が終了しての所感

- ・グループ全体としては、概ね想定どおりの推移であったと評価。
- ・計画の策定時と比べ、経営環境にも様々な変化があったが、施策を着実に実行し、一定の成果を得ることができたと考える。しかしながら、セグメントごと、あるいは事業部門ごとには、その成果にバラつきがある。
- ・国内においては、主要施策であるワンストップ営業・アカウントマネジメントの取組みが機能し、輸出航空貨物の大幅な伸長や、事業部門をまたがった自動車関連貨物の取込みなど、成果が表れている。
- ・外注費や燃油費など、各費用の増加が、連結会社や個別の収益にも影響しつつある。
- ・海外でも、各地域で堅調な売上の増加の裏側で、費用の上昇が顕在化しつつある。
- ・経営計画の最終年度がスタートしたが、これまでの取組みを大きく変更することはない。
- ・エリア戦略、機能戦略に基づき、国内・海外におけるワンストップ営業・アカウントマネジメントをさらに推し進め、グローバル顧客の取扱いの拡大を図る。
- ・適正料金の収受やシェアードサービスセンターの活用を通じて、収益力を強化。
- ・成長ドライバーが、海外であることも変わらない。今後も、南アジア地域に集中的な投資を継続。

## VI. 配当の状況

### 配当性向の推移と予想



※2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株に併合いたしましたので、2018年3月期以降の配当については、当該株式併合を考慮した金額で記載しております。

#### 【資本政策の考え方】

1. 自己資本比率は、40%を目安とする。
2. 配当性向は、30~40%を目安とする。
3. 持続的な成長に向けた投資を継続するとともに、機動的な株主還元策を検討する。

**We Find the Way**



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。